

千葉市立幕張中学校 第3学年 英語科学習指導案

指導者 土谷 匡
場所 体育館

1 単元名 NEW CROWN ENGLISH SERIES 3 Lesson3 Rakugo Goes Overseas

2 単元について

(1) 目標及び評価規準

- | | |
|---------------------------------------|------------------------|
| ①身近な人についてプレゼンテーションすることができる。 | (イ外国語表現の能力) |
| ②身近な人についての紹介文を書くことができる。 | (イ外国語表現の能力) |
| ③読んだ内容について要約文を書くことができる。 | (イ外国語表現の能力) |
| ④発表内容をもとに、英語で質疑応答をすることができる。 | (イ外国語表現の能力) |
| ⑤インタビュー内容を聞き、読み、その情報を理解することができる。 | (ウ外国語理解の能力) |
| ⑥プレゼンテーション活動や英語でのやり取りに対して積極的に取り組んでいる。 | (アコミュニケーションへの関心・意欲・態度) |
| ⑦現在完了の文構造に関する知識を身に付けている。 | (エ言語や文化についての知識・理解) |

(2) 分科会テーマとの関わり

第2分科会では、「CAN-DO リスト」を活用した英語授業がテーマである。「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標を設定する目的は、①外国語表現の能力と外国語理解の能力について、生徒が身に付ける能力を各学校で明確化し、教員が生徒の指導と評価に活かすこと ②学習指導要領を踏まえた4技能を総合的に育成し、外国語によるコミュニケーション能力、相手の文化的、社会的背景を踏まえた上で、自らの考えを適切に伝える能力、ならびに思考力・判断力・表現力を養う指導につなげること ③生涯学習の観点から、教員が生徒と目標を共有することにより、言語習得に必要な自律的学習者として主体的に学習する姿勢態度を生徒が身に付けること、である。

本校では、文部科学省「各中・高等学校の外国語教育による『CAN-DO リスト』の形での学習到達目標設定」及び千葉市教育委員会作成の「CAN-DO リスト」をもとに、本校独自の「CAN-DO リスト」を作成し、今年度より「CAN-DO リスト」を活用した英語授業を実践している。本校では、第1に「1時間ごとの目標を提示して授業を行うこと」、第2に「目標を達成するために適切な言語活動を設定すること」、第3に「目標が達成できたかどうかの適切かつ妥当な評価」を行うことによってコミュニケーション能力を向上させたいと考え指導を重ねてきた。

本単元は、経験したことや完了したことを言ったり、尋ねたりする時に必要な表現について教科書を通して学び、身近な人についての紹介文を書いたり、プレゼンテーションしたりする力を養う。

3 生徒の実態

(1) 各種データより

以下の【表1】は、平成27年3月に実施をした千葉県標準学力検査の結果一覧である。全体的には幕張中学校は、千葉県の平均よりも上回っており、標準得点は53, 4という結果になった。その中でも特に、千葉県との比較において、「表現」と「理解」の観点での能力が高く、4技能別で見ると、「話す力」が千葉県平均を大きく上回る結果となった。1学年から継続して指導してきた成果と考えられる。また、次いで「読む力」が高かった。NEW CROWNでのUSE Readのセクションを重点的に積み重ねてきた結果を考えられる。

実際に授業展開をする3年4組の生徒たちの結果を見てみると、学年平均よりも下回る結果が多く出ているが、「関心・意欲・態度」については、学年平均を大きく上回る結果となっており、英語学習には前向きに積極的に取り組んでいるという結果となった。4技能別に見てみると、「書く力」が他の技能に比べると大きく下回る結果となった。SpeakingとWritingは両輪で常に指導は重ねてきたが、結果としてはまだまだ十分身につけていないということになり、今後の指導の重点項目として考えていきたい。

また、【表2】については、平成27年3月末現在の第3学年の英語検定取得率である。4級取得者が学年全体の15%となっており、3級・準2級の取得率は学年全体の24%となっている。全国平均と比較してみると、「平成26年度 英語教育実施状況調査」によると、3級以上の取得率は18.4%となっており、全国平均を現時点で上回ることができた。また、今回の平成27年度第1回の英語検定の結果を受けて、全体的に3級取得者が増えていくことを期待したい。さらに、3級相当の実力があるが、英語検定を受検していないという生徒も多くいるので、改善の余地はまだあると考えられる。また、授業展開学級の3年4組は、定期試験や英語検定取得率等も含めて考えた際に、学力的には学年で4クラス中3番目の学力である。高いわけではないが、前向きに英語学習に取り組む姿勢があり、プレゼンテーション能力も徐々に伸びつつある。

【表1】 千葉県標準学力検査 (平成27年3月実施 当時2学年)

	学年平均	4組平均	県平均	全体と県	4組と県
関心・意欲・態度	83, 2	84, 7	80, 3	+2, 9	+4, 4
表現	76, 5	75, 8	67, 0	+8, 5	+7, 2
理解	75, 0	75, 6	67, 6	+7, 4	+8, 0
言語	70, 4	68, 3	64, 0	+6, 4	+4, 3
聞く	73, 8	74, 8	67, 3	+6, 5	+7, 5
読む	73, 2	72, 6	64, 2	+9, 0	+8, 4
話す	86, 0	85, 1	76, 3	+9, 7	+8, 8
書く	66, 1	64, 3	60, 1	+6, 0	+4, 2

【表2】 実用英語検定取得率 (平成27年3月末現在 学年生徒123名)

	5級	4級	3級	準2級	受験者
3年1組	1	2	12	0	15
3年2組	2	4	9	0	15
3年3組	1	2	4	1	8
3年4組	1	10	2	1	14
学年全体	5	18	27	2	52
割合	4%	15%	22%	2%	42%

(2) これまでの指導の経過より

この学年は、入学時の時より、「英語でプレゼンテーションができる生徒を育成する」という卒業時の目標を掲げ、各学年での指導を重ねてきた。これまでの指導経緯については、【表3】に占めている通りであるが、幕張中学校が考えるプレゼンテーション能力は2点ある。1点目は、仲間の前でテーマに基づき、英語でプレゼンテーションをすることができる力。その中には当然英語の力も含まれるが、それ以上に聴衆に向けて自分が伝えたい内容をうまく伝達させるために、アイコンタクトや必要に応じたジェスチャー、表情、プレゼン原稿の中での工夫なども重要な要素なってくる。プレゼンテーションにも、予め原稿を準備して臨むプレゼンテーションもあれば、即興でテーマが与えられ、その場で短い時間で考えて、プレゼンテーションをする場合の2つが考えられるが、いずれも自信をもって取り組める力を伸ばしていきたい。2点目が、その場で聴いたプレゼンテーションの内容に対して即興で質疑応答ができる力である。これについては、実際に社会に出てからプレゼンテーションをする機会の中で、自分の発表した内容について質問が来ることは当たり前である。相手の質問の内容を把握し、適切な反応を示すことも重要な力である。さらに、この点については、どんな質問が来るかわからない状況での対応を強いられる。したがって、幕張中学校のプレゼンテーションの中では「即興性」というキーワードでつないで考えていきたい。

これらの力を身に付けていくために、各学年に応じて様々な活動を行ってきた。1学年においては、ある程度英語学習が進んだ段階で、教科書の内容をもとにリプロダクション活動【資料3】を開始した。教科書に出てくる登場人物について、英文を読んで必要な情報を拾い上げ英文をまとめ、それをペアや全体で紹介する活動である。2年生になると、テーマを少し大きくし、大型スクリーンを活用し、スクリーンにイラストを提示しながら英語で発表する「プレゼンテーションテスト」【資料2】を重ねてきた。そして、3年生になると、レッスンの学習のまとめとして、プレゼンテーションの課題を提示し、教科書の本文をもとにしながら、そこにオリジナルの情報を加え、プレゼンテーションを聞いている聴衆を巻き込むような原稿を作成し「プレゼンテーションテスト」【資料1】を実施している最中である。

また、本校では毎年、1月から3月までに外国人講師が着任するため、各学年の学習のまとめとして1年間培ってきた英語力を駆使しながら、ネイティブと英語で会話をする、ネイティブにインタビューを行い、紹介ポスターをまとめるという活動を1学年の時から重ねてきた。

(3) 「CAN-DO リスト」との関連性

現在の3年生は「CAN-DO リスト」を意識しながらこれまで指導を重ねてきた。「CAN-DO リスト」を作成すること・活用することの大きな狙いの一つとして、我々教員の授業改善が掲げられている。ちょうど3年前にも3学年を担当し、同じ教科書を使って指導をしたが、3年前の3年生は「CAN-DO リスト」はなかった。3年前と今年の3年生の指導で大きな変化があり、それは、卒業時の目標を掲げ、それに向かって各学年でどのような指導をしていく必要があるかを考えたことである。したがって、3年前の授業では、現在の3年生がこれまで実施してきた「プレゼンテーションテスト」などは行わず、教科書を進めるのみで、USE Readの本文から発展した活動を特に実施することはなかった。授業者自身の授業が「CAN-DO リスト」を作成したことで、大きく変化し、生徒たちの発信力としての英語力も3年前の生徒と比べると大きく異なることに、授業を重ねるたびに強く感じる機会が増えた。「CAN-DO リスト」を作成することで、教師にとっても、生徒にとってもプラスの効果を感じることができた。

今回の授業についても、卒業時の目標に向かって指導している途中経過の授業となっている。生徒たちのプレゼンテーション能力を向上させ、即興での質疑応答を英語ですることができるように成長させていく一環の授業と捉え、指導を重ねていきたい。

【表3】 卒業時の目標に迫るためのこれまでの活動内容

【卒業時の目標】 英語でプレゼンテーションをすることができる生徒の育成

【幕張中学校が考えるプレゼンテーション能力】

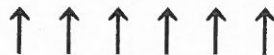
〈キーワード〉

即興性

- ①原稿を準備し、プレゼンテーションをすることができる。
- ②**即興で**、プレゼンテーションをすることができる。
- ③その場で聞いたプレゼンテーションの内容に対して、**即興で**質疑応答ができる。

3学年での取り組み

授業での活動	外国人講師等での活動
<ul style="list-style-type: none"> ・要約文・紹介文作成【資料1】 ・プレゼンテーションテスト【資料1】 ・即興スピーチ【資料4】 	<ul style="list-style-type: none"> ・1分間自己紹介面接 ・2分間トピックチャット ・グループインタビュー ・紹介ポスター作成 ・修学旅行 京都での外国人インタビュー ・修学旅行 外国人紹介ポスター作成



2学年での取り組み

授業での活動	外国人講師等での活動
<ul style="list-style-type: none"> ・リプロダクション【資料3】 ・プレゼンテーションテスト【資料2】 	<ul style="list-style-type: none"> ・1分間自己紹介面接 ・2分間トピックチャット ・グループインタビュー ・紹介ポスター作成



1学年での取り組み

授業での活動	外国人講師等での活動
<ul style="list-style-type: none"> ・リプロダクション【資料3】 	<ul style="list-style-type: none"> ・1分間自己紹介面接 ・2分間トピックチャット ・グループインタビュー ・紹介ポスター作成

4 指導と評価の計画(14時間)

時間	○ねらい・学習活動	目標 (評価規準)	評価方法
1	○現在完了(経験用法)の文構造を理解する。(教科書 p.24-25) ・オーラルイントロダクションで導入された現在完了(経験用法)を理解する。 ・プリントを使い、ペア活動をする。	⑦	後日 ペーパーテスト
2	○教科書本文の内容を理解する。(教科書 p.24) ・CDリスニングを通して概要を理解する。 ・本文の音読練習をする。(全体、個人、ペア)		
3	○現在完了(完了用法)の文構造を理解する。(教科書 p.26-27) ・オーラルイントロダクションで導入された現在完了(完了用法)を理解する。	⑦	後日 ペーパーテスト
4	○教科書本文の内容を理解する。(教科書 p.26) ・CDリスニングを通して概要を理解する。 ・本文の音読練習をする。(全体、個人、ペア)		
5	○USE Read の本文の概要を理解する(教科書 p.28-29) ・オーラルイントロダクションを聴き、概要を理解する。 ・CDリスニングを通して、タスクに答える。 ・全体の音読練習をする。(全体、個人、ペア)	⑤	後日 ペーパーテスト
6	○USE Read の本文の詳細を理解する。(教科書 p.28-29) ・与えられたタスクに答える。 ・本文で扱われている現在完了について確認をする。 ・大島きみ江さんについての紹介文を考える。	⑤	後日 ペーパーテスト
7	○大島きみ江さんについての紹介文を書く。 ・前時に確認した紹介文をもとに、さらに書き足していく。 ・紹介文作成のポイントに留意して作成する。	③	ワークシート
8	○大島きみ江さんについての紹介文を書く。 ・友達の紹介文と良いアイデアを共有する。 ・自分の紹介文をより良いものに修正していく。	③	ワークシート
9	○大島きみ江さんについてプレゼンテーションをする。 ・ジェスチャーを交えながらプレゼンテーションをする。 ・発表内容について英語で友達とやり取りをする。	④⑥	活動の観察
10	○Mini-project において、先生のインタビューを聞き取る。 (教科書 p.30-31) ・CDリスニングを通して、インタビュー内容を理解する。 ・インタビュー内容についてワークシートに整理する。	⑤	ワークシート
11 (本時)	○身近な人の紹介をする。 ・モデル紹介文を聞き取る。 ・身近な人について即興で簡単な英語で紹介する。 ・発表内容について英語で友達とやり取りをする。 ・身近な人について、発表した内容を英語で書く。	①⑥	ワークシート 活動の様子
12	○身近な人の紹介文を作成する。 ・前時に発表した内容にさらに付け加え、紹介文を書く。 ・友達の紹介文と良いアイデアを共有する。 ・自分の紹介文をより良いものに修正していく。	②	ワークシート
13	○身近な人についてプレゼンテーションをする。 ・ジェスチャーを交えながらプレゼンテーションをする。 ・発表内容について英語で友達とやり取りをする。	①④⑥	活動の様子

14	○文法の要点で学習のまとめをする。(教科書 p32-33) ・現在完了の文構造を確認する。 ・ 確認問題 に取り組み、文構造を確認する。 ・ 発音とつづり 、 英語らしい音づくり で、音声を確認する。	⑦	後日 ペーパーテスト
----	--	---	---------------

5 本時の指導 (11/14)

(1) 本時の目標

- ①身近な人の紹介を簡単な英語で伝えることができる。(外国語表現の能力)
 ②聞いた英語に対して、即興でやり取りをしようとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

(2) 本時の展開

学習過程 時配	○学習内容・活動	○支援・留意点 ☆評価	資料
1. Greeting -1	○英語で元気よく挨拶をする。	・教師側が元気よく挨拶をして、授業の雰囲気を作り上げる。	
2. Review -10 Warm-up	○帯活動で行っている大島さみ江さんの紹介文についてプレゼンテーションをする。 ・各自2分間練習をする。 ・小グループに分かれてお互いに発表をする。(1人2分間) ・発表に対して英語で自由にコメントをする。	・gesture や eye-contact を交えながら、力強く大きく表現するように促す。 ・発表を終えたら、どんどん英語でやり取りを進めるように促す。 ○上手に進んでいないグループについては教師がサポートをする。 ☆自由に英語でコメントをやり取りしているか(観察)	【プリント1】
3. Oral Introduction -7 Input	身近な人について簡単な英語で紹介することができる		
	○教師のモデルを全員で聞き取る。 ・幕張中の先生の紹介文を聞き取り、これから自分たちが発表していく内容について理解をする。 ・提示されたモデル文から、それぞれの良さについて話し合う。	・生徒たちの身近な話題を取り上げ、わかりやすく生徒たちに提示をする。	
4. Presentation -27 Intake Output	○発表の準備をする。 ・マッピングを活用し発表の準備を作成する。(3分間) ・マッピングをもとに、発表の練習を各自でする。(3分間) ○簡単な英語で発表する。 ・小グループに分かれてお互いに発表をする。(1人2分間) ・発表に対して英語で自由にコメントをする。 ・小グループのメンバーを変えて、お互いに発表をする。(1人2分間) ・同じように発表に対して英語で自由にコメントをする。	・完璧な英語を求めすぎずに、メモをもとに、伝えたい内容を表現できる英語で発表するように促す。 ☆簡単な英語で身近な人の紹介をしているか(観察・プリント) ☆自由に英語でコメントをやり取りしているか(観察)	【プリント2】
5. Consolidation -5 Comprehension	○本時のまとめをする。 ・今回発表した内容を、英語でまとめる。(4分間) ○英語で挨拶をする。	・次回はさらにより良いものを作っていくアナウンスをする。	【プリント2】

【A評価のモデル文】

①Hello, everyone. **Do you have any favorite friends?** I'm going to talk about my favorite friend. My favorite friend is Taro. **Do you know him? As you know,** he likes baseball very much. He **has played** baseball for five years. **So,** he can play baseball very well. He never quits. I **have known** him since I started playing baseball. I **have played** baseball for three years. I'm **encouraged** by him. **So,** I respect him. Thank you.

②Hello, everyone. I'm going to tell you about my favorite friend. **Can you guess? Do you know who my favorite friend is?** He likes baseball very much. He has played baseball for five years. He can play baseball very well. **I have known him since I started playing baseball.** **Do you understand? ... Yes!** His name is Taro. He is my favorite friend. I'm **encouraged** by him. **So,** I respect him. Thank you.

【評価のポイント】

- 疑問文等を含めた聞き手への問いかけがある。
- as you know, などを含めたつなぎ言葉を使用している。
- 聞き手が興味を示すような語り方が工夫されている。
- 3 学年で学習した言語材料が含まれている。(受け身、現在完了 等)
- 文量が確保されている。(10 文以上)

【B評価のモデル文】

Hello, everyone. I'm going to talk about my favorite friend. My favorite friend is Hanako. She is a tennis player. She can play tennis very well. She likes AKB48. **Do you like AKB48?** She likes Sashihara. **I know her since two years.** We are good friends.

【評価のポイント】

- 簡単な聞き手への問いかけがある。
- つなぎ言葉を上手に活用できていない。
- 話題に統一感はないが、多くの情報を伝えようとしている。
- 文法的な誤りがあるが、学習した表現を活用しようとしている。

【C評価のモデル文】

My favorite friend is Kota. He is a basketball player. He like music. He is cool! He is handsome! I like him.

【評価のポイント】

- 導入部分がなく、いきなり本題に入っている。
- 学習した言語材料が使用されていない。また、誤りが多い。
- 聞き手への問いかけ等を含め、話題に発展性がない。
- 文量が少ない。